

知恵を集め、力を合わせ、お互いを活かす

アメリカから帰国し、当所の青年部に入れていただいてから 30 年近く経ち、全国の青年部（今は日本 Y E G と呼びます）の会長を拝命したのが 16 年前、そして今年、会頭として 2 期 6 年目と、振り返ってみればずいぶん長く商工会議所の活動に関わってきた今、思うのは会議所という組織の「限界」と「可能性」です。

言うまでもなく、行政ではないので、政策について提言や提案はできても、決定や実行はできません。また、運転資金や実働部隊を持つわけではないので、具体の事業の推進母体になることも難しいです。会議所単体でできることは限られていると言えます。ですから、会議所の一丁目一番地の仕事は、会員の皆さんの商売繁盛に役立つサポート活動に地道に取り組むことだと考えています。

同時に一方、広い異業種の集まりで、社会的認知もあり、事務局機能を有する会議所が力を入れるべきことは、会員さんの意見を聴き、会議所内での議論が盛り上がる環境をつくり、つながりをつくること、いわば、会員さんの「知恵を集め、力を束ね、お互いを活かす」ことだと思えます。

そして、その姿勢は、会議所の中だけに留めるのではなく、他団体との関係にも広げていくべきだと思います。そんな思いから、今、他団体との連携・コラボレーションに力を入れています。

- 事業承継マッチング～襷をつなぐ～では、地域の金融機関と税理士会と。
- ものづくりでは、関東学院大と。
- ラグビーや東京オリパラといったスポーツを地域の活性化のつなげるために、行政、体育協会、観光協会と。加えて、東京にある在日オーストラリア・ニュージーランド商工会議所とも交流が始まりました。
- 地域防災では、行政と自治会と。
- 広域防災では、日光と掛川の商工会議所と。
- シニア層の雇用では、シニアネットワークと行政と。
- 障がい者雇用では、障がい者施設と行政と。
- 相模湾という海を活かすまちづくりでは、沿岸の 7 商工会議所と 7 商工会と。
- J A とも連携についても両者合同での議論が始まりました。

それぞれが知恵を出し、それぞれの得意技を発揮し、成果を出す。まさに「知恵を集め、力を束ね、お互いを活かす」取り組みを進めてまいります。地味で目立たないことが多いかもしれませんが、ご興味を持っていただき、ご期待&ご参画をいただければうれしい限りです。

会頭 鈴木悌介